

English Garden 第35話

"Brother Sun, Sister Moon and Mother Earth" Saint Francis of Assisi

「兄弟なる太陽、姉妹なる月、母なる大地」 アッシジの聖フランシスコ

上の言葉は聖フランシスコの"Canticle of Brother Sun"「太陽の賛歌」と呼ばれる詩の中からです。かつて「ブラザー・サン、シスター・ムーン」という題名で聖フランシスコを主人公とする映画も製作され、日本でも人気を博しました。彼は自然のものはすべて神を映す鏡であると考え、自然を賛美すると共に神をたたえたのです。

聖人に会った人は誰でも、彼の謙遜さと母のような優しさに強い印象を受けたということです。いつも柔和でどんな人にも親切で思いやりが深く、怒ったことはほとんどなかったので、誰からも愛されました。貧しい人には自分の持っているものをすべて与え、病気に悩む人びとを助けました。その優しさは植物や動物にも及び、伝記の中には、小鳥をはじめ、動物に関するエピソードもたくさん紹介されています。次はその一つです。

ある谷を旅していたとき、聖フランシスコはいろいろな種類の鳥がたくさん集まっているのに出会いました。近づいても逃げようとしないので彼は喜び、神の言葉を聞いてくれるよう謙虚に頼んで説教を始めました。すると「小鳥たちは彼の声を聞くと、首を長く伸ばしたり、翼を広げたり、口を開けたり閉じたりしながら、話し手の方をじっと見つめ、それぞれの仕方で喜びを表わしていました。そのあいだフランシスコは彼らのあいだを行ったり来たりしていましたが、その衣服が彼らの頭や身体に触れても、彼らは逃げようとはしませんでした」(チェラノのトマス「聖フランシスコの第一伝記」あかし書房)



「太陽の賛歌」は、フランシスコが重い病を得て盲目となり、故郷のアッシジにたどりついて、死の直前に心からの叫びとしてうたったものです。その状況を考えて、この内容にはいっそう心を打たれるものがあります。以下その一部をご紹介します。(黒田正利訳)

ほむべきかな、主よ、主のつくりませる物みなと、
ことに昼を与へわれらを照り輝かす
はらから(ブラザー)太陽と。
日は美しく眩しきまでに照り渡る、
かれこそは主の御姿、ああ高きにいます主よ。

ほむべきかな、わが主よ、わがはらから(シスター)月は星は、
主はこれを見空に造りたまひ、すみて尊く美はし…

ほむべきかな、わが主よ、はらから(シスター)母なる大地は
われらを育みわれらを治め、
木の実を結び、花を装ひ、草をはくむ…

ああ、ほむべきかな、わが主よ、はらから(シスター)死は、
誰か死をのがれん 生けるもの皆は、
いたはしきかな罪の死に亡ぶ者は。

されどほむべきかな主の聖意にすむ者は、
第二の死のそこなふことはあらじ。

主をほめたたへ、主に感謝せよ、
いとへりくだりて主に仕えよ。